

ゆうゆう通信

平成26年2月1日発行 第10号
ゆうゆう開設20周年記念特別号

発行 飯田市立病院介護老人保健施設
ゆうゆう 広報委員会
〒395-8503 飯田市上郷黒田341
電話 53-6048 FAX 53-6047



「ゆうゆう」開設

二十周年記念に際して

施設長 市瀬 博

今年最初の「ゆうゆう通信」発行に際し、旧年中皆様から賜りました御厚情に心より感謝申し上げます。

さて「ゆうゆう」は介護老人保健施設として開設されてから満二十周年を迎え、更なる一歩を歩み始めました。日本は昭和四五年頃より高齢化社会に突入し、その後六五歳以上の人口比率が十四%を超える高齢社会となったのは平成六年です。平成十七年には高齢者の比率が二一%を超える超高齢社会となっております。地域別にみますと都市部より地方に於いてその変化が顕著であり、若い方が都市部で職を見つけざるを得なくなつた社会構造の変化も一因と考えられます。「ゆうゆう」はこの様な高齢社会の中、平成五年四月より老人保健施設として上郷町に開設されました。上郷町はこの年の七月に飯田市と合併をしております。当初、老人保健施設は障害を受けた方々の退院後の家庭・社会復帰を目指す中間施設としての役割を目的として設置されました。その後平成十二年介護保険制度の導入を経て平成二十二年六月に新築し、「ゆうゆう」は、飯田市立病院介護老人保健施設として発展して参りました。

介護保険制度は、要介護状態になつた方々の社会全体での支援を目指しております。介護老人保健施設は、要介護者とそのご家族が安心して生活を送れる様支援する為、医療・看護・介護の下で要介護者が安心して安定した生活が送れる場、

時には人生の最期を安らかにご家族と共に迎える事が出来る場としての役割も担っております。

日本における高齢化は欧米各国と比べ急速に進行しており、高齢社会は日本が世界で真つ先に直面した問題です。介護保険制度の導入後も老々介護、高齢者独居家庭、家庭介護困難な状況への支援等まだまだ十分でないのが現状です。また制度の中で重要な介護の担い手である施設の場合に於いても、介護報酬や雇用状況等厳しいものがあります。安定した介護を提供するに当たり、今後も皆様と共に考えていかなくてはなりません。制度以外にも施設における個人と集団との調和、認知症に対する介護方法と適切な薬物療法の調和等研究を積んでいかなくてはならない課題が多々あります。将来自身自身が介護を受ける場合、出来得る限りその時点でもなお、制度を支える一員としての視点を持つ事が大切と考えます。

現在「ゆうゆう」は、通所リハビリ、居宅介護支援事業所、地域交流スペース、一般ケアと認知の障害を持つ方々の為のユニットケアを備えた入所施設から成っております。飯田市及び周辺地域の医療・福祉を担う介護老人保健施設として、その責務に恥じないよう日々研鑽を積んで参っております。

これからも地域の方々とそのご家族のご期待に添えますよう誠心誠意努力して参ります。ご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。最後に皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



飯田市立病院介護老人保健施設 ゆうゆう の沿革

変遷の時期		変遷の内容	定員
1992	平成 4. 7.22	病院の増改築を行い、1 階・2 階を老人保健施設と共有し、3 階を老人保健施設として使用する。 病床の減 155 床 → 132 床	
	平成 4. 11. 2	第 4 1 回飯田市・上郷町合併協議会小委員会において飯田市・上郷町合併の時期が平成 5 年 7 月 1 日と決定する。	
1993	平成 5. 4. 1	老人保健施設「上郷町老人保健施設・ゆうゆう」を開設する	50 床
	平成 5. 7. 1	飯田市と上郷町の合併により「飯田市立高松病院」となる。	50 床
		老人保健施設は「飯田市上郷老人保健施設・ゆうゆう」となる	
1995	平成 7. 4. 1	「飯田市上郷老人保健施設・ゆうゆう」が保健福祉部保健課から病院運営となる。	50 床
1999	平成 11. 4. 1	「飯田市立高松病院」を「飯田市立病院高松分院」に名称変更する。	50 床
2000	平成 12. 4. 1	介護保険法が開始される。 飯田市上郷老人保健施設「ゆうゆう」は、飯田市上郷介護老人保健施設「ゆうゆう」と名称変更された。	50 床
2002	平成 14. 3. 28	浴室改修工事が完成する。	50 床
2007	平成 19. 4. 1	飯田市立高松診療所を上郷保健センター内に開設	
2008	平成 20. 5. 21	新介護老人保健施設整備事業 高松分院解体工事が着手される。	50 床
	平成 20. 10.30	新介護老人保健施設整備事業 本体工事の着手となる。	
2010	平成 22. 5.21	新施設竣工式が行われる	100 床
	平成 22. 6.1	「飯田市立病院介護老人保健施設 ゆうゆう」を開設する。	(50 床)
	平成 22. 10.1	入所事業 50 床 から 60 床へ届出変更	100 床 (60 床)
	平成 22.12.28	介護・福祉・健康の里づくり事業 太陽光発電システム設置工事着手	100 床 (60 床)
2011	平成 23. 2.18	介護・福祉・健康の里づくり事業 太陽光発電システム設置工事完了	100 床 (60 床)
	平成 23. 2.28	介護・福祉・健康の里づくり事業 旧施設解体・施設外構工事着手	
	平成 23. 12.22	介護・福祉・健康の里づくり事業 旧施設解体・施設外構工事完了	
2012	平成 23. 12.15	介護・福祉・健康の里づくり事業 広場整備工事着手	100 床 (60 床)
	平成 24. 2. 1	入所事業 60 床 から 70 床へ届出変更	100 床 (70 床)
	平成 24. 3.23	介護・福祉・健康の里づくり事業 広場整備工事完了	
2013	平成 25.10.1	入所事業 70 床 から 100 床へ届出変更 入所定員 100 床による運営開始	100 床



ゆうゆう創立の思い出

初代事務長 浜島卓治

介護老人保健施設「ゆうゆう」は平成五年四月一日に、当時の町立高松病院に「病床転換型中間老人保健施設ゆうゆう」として併設され、今年創立二十周年の記念すべき年を迎え誠にめでとうございます。

現在は改築され百床を有し、診療所と一体になった「介護老人保健施設ゆうゆう」を見ると、当初病院併設に関わった元職員の一人として感無量の思いがあります。今日まで二十年間の歴史を持つ地域で信頼される「介護老人保健施設」になった陰には、施設で働く医師をはじめ、職員の皆様方が病めるお年寄りのため、医療、リハビリ、介護管理運営等に献身的に取り組んでこられた労苦によるもの多であり、地域住民として感謝申し上げます。

そこで、高松病院に老人保健施設を併設するに至った経緯について振り返ってみると、上郷町は戦後、上郷村時代からベッドタウンとして人口が増え、時代の経過とともに高齢化が進み、町内に寝たきり老人を抱え、家人が世話をしなければならぬ家庭が増え、住民の中から高松病院で医師の管理の下で、看護、介護、リハビリが一体となった、老人保健施設の併設を希望する声が高まり、平成三年に、当時の町議会や病院運営委員会等で検討審議され、飯田市との合併を前に、他の地域に先駆けて、老人保健施設を高松病院に併設する事が決まり、平成四年に入り病院の西病棟と、町の保健センターの一部を施設に転用するための費用が計上され、病棟の改築設備工事を行うと同時に施設で働く介護職員の公募を行いました。また看護師や事務職員は高松病院から異動し、理学療法士は病院と兼務するなどして、職員体勢を整えて予定通り「ゆうゆう」を創立する事ができました。当初の職員体制は、医師一名（病院兼務）、理学療法士二名、看護師四名、介護員十一名、相談員一名、事務職三名、総員二十二名でした。患者送迎車一台も配備し、施設名「ゆうゆう」の呼称については理事者側でつけました。

「ゆうゆう」の当初の入所者は、病院に入院していて介護とリハビリを受けていたお年寄りの利用者が多かったと思います。

また創立当初、老人保健施設での仕事の経験のない職員が多かったこともあり、介護技術を学ぶため、当時すでに老人保健施設を運営していた、町立辰野病院の「福寿荘」およびその他数ヶ所へ研修視察に行き、介護技術の習得に努めました。その後、日を追って介護員の介護技術やリハビリなどの業務が軌道にのり、職員と入所者やデイケア通所者とのコミュニケーションが深まるとともに、入所者や家族との信頼も深まってきました。

なお、施設では日常の介護業務のほか、入所者が四季を通して、楽しめる行事を職員間で企画して実施してまいりました。私がゆうゆうでの事務で勤務した期間は短時間でしたが、その間で今思い出す主な行事は、年末に職員の自宅から「餅つき用の臼と杵を借りて、ゆうゆうの広場で入所者が掛け声をかけ見守る中で、職員が餅つきをして給食に出した事、またゆうゆうの玄関に設置する「正月の松飾り」を広間で入所者と一緒に作った事、正月は今の職員駐車場で、職員が自宅から持ち寄った門松等で「ほんやり」を作って「どんど焼き」をしたこと、春は「野底山の桜の花見」に入所者を町のマイクロバスで連れて行き、姫宮センタールで昼食会をしたこと、夏は駐車場で入所者の家族も参加する中、女子職員は浴衣姿で「盆踊り」や入所者と一緒に「花火大会」をしたり、職員による「バンド演奏」など披露して、にぎやかなひと時を過ごしたこと。また時々職員が広間で「滑稽な寸劇」などを演じて入所者を喜ばした事など、数多く思い出されます。平成五年七月一日に上郷町が飯田市と合併し「ゆうゆう」は飯田市立となりました。時の流れとともに医療介護技術が一層向上し、「ゆうゆう」の存在は、地域の病めるお年寄りの命の砦として信頼されており、超高齢化社会が無限に進む時代の中で、ますます必要な施設であります。長野県が日本一の長寿県になった今日、「ゆうゆう」の存在を誇りに思う今日この頃です。





地域に根ざしたゆうゆうに期待

元事務長 久保田龍夫

創立二十周年、人間でいえば成人式を迎えこれから大きく羽ばたくときです。

上郷町立高松病院に介護老人保健施設として、病状が安定し入院の必要はなく、医療的な管理のもとに在宅で生活出来るように、機能訓練などを行い自立して生活ができるための支援を目的に併設され、平成五年七月飯田市との合併で市に移管されました。

特別会計による運営でしたので、大変厳しい中で介護サービスを提供しなければならず、毎週月曜日に運営会議を行い諸問題について、夜遅くまで検討をいたしました。幸いに分院には療養型病床があり相互に連携をとり、入所者の確保、健康管理に当たりました。一番のメリットは分院との併設で入所者が急変した時の対応が速やかにでき、どの入所者からも安心してお世話になれると喜んでいただきました。

また、すばらしい能力を持つリハビリテーションがあり、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のみなさんのたゆまぬ努力によって支えられておりました。

仕事をする時に心掛けることは、高齢者、障害者なので安心して穏やかに過ごしていただけるように思いやりの心を持って、やさしく話しかけ、よく話を聞き、その中で表情の変化を見逃さないことだと思います。誰もが一日も早く家に帰りたい気持ちでいっぱいです。

二〇三〇年には、四人に一人が高齢者となります。医療と介護の必要性が高まります。地域で愛され必要とされる、ゆうゆうでありますよう活躍をご期待申し上げます。



今後とも地域から頼られる施設に

元事務長 星野寿美子

ゆうゆう創立二十周年、おめでとうございます。私がゆうゆうにお世話になった頃は、高松分院の閉院、そして新ゆうゆうの建設という過渡期で、更には、介護保険法の初めての改正にも対応しなければいけない時代だったと改めて思い出しています。最初は係長として、その後事務長補佐を経て事務長として、特に、新施設の建設に際しては、スタッフの皆さんと一緒に、時には自分の時間を使いながら、とにかくあちこちの新しい老健を端から見て歩き、新ゆうゆうの施設としてのコンセプトについて、顔を合わせるたびに熱く議論していたような気がします。そして、高松分院の解体、大銀杏の伐採、新施設建設、竣工、引越、目まぐるしく過ごしました。市立病院職員の方々の協力の下で天候に恵まれて無事に引越を終えることができた新施設での運営がスタートしましたが、仕事を継続しながらの運営には変わりはない現場はとても大変だったと思います。この間、施設スタッフ皆が一丸となってくれていました。そのお蔭で大きな事故もなく肅々と運ぶことができた、今でもそのことは忘れられません。

それから、たまに、ご利用者の皆さんと触れ合える時間はとても貴重で、通所された方々とのコーヒータイムも楽しい時間でした。季節ごとの行事も自分の休日にボランティアで参加してくれるスタッフが中心になって、手作りの暖かな行事が多く行われ、盛況だったことも心に残っています。

これからも、目まぐるしく制度の改正は行われていくでしょうが、地域の方々から信頼され頼りにされる施設として、職員の皆さんが研鑽をつまれるよう期待します。



ゆうゆう創立二十周年によせて

～ゆうゆうに思うこと～



看介護係長 原 明子

今のゆうゆうの前身である上郷介護老人保健施設が開設されたのは平成五年の春でした。以前の高松病院の一部を改築し、五十床で第一歩を踏み出しました。その頃は中間施設とも言われ、病院から家庭への通過点とも考えられており、在宅復帰率も六十五パーセント以上でした。

私はゆうゆうで初代師長を命ぜられ何も分からないままにスタートしましたが、二年後市立病院への異動を命ぜられ、十五年間市立病院で勤務した後再度ゆうゆうに戻ってきました。

平成二十二年五月に今の快適なオール電化の施設になり、入所定員百名、以前に比較すると倍以上のスタッフという環境の中で改めて看・介護に取り組んでいます。認知症の方が多くは、主に三階ユニットで担当しています。介護員はそれぞれのフロアで工夫を凝らし、入所者の方々が少しでも楽しく生活できるようにと頑張っています。ゆうゆうを訪問してくださるボランティアさん方も徐々に増え、幼稚園児、小中高生から一般の方、中には九十歳に近い方まで、楽しい時間づくりに協力をいただいています。

開設当初は入所人数も少なかった為、バスでお花見、紅葉狩りなど出かけた事もありましたが現在利用者様が多く、まとまって何かする事が難しくなっています。しかし、日頃のスタッフのグッドアイデアで日々の生活の楽しみが増えるように取り組み、今後も楽しい馴染みの空間「ゆうゆう」をめざしていきます。



思い出写真館(その一)



「ゆう・ゆう」
とは?

悠悠 ゆっくりおちついて
遊遊 人生あそびごころを持って
友友 おおくの友、こころの友と一緒に
優優 やさしく思いやりのこころで



ゆうゆう新任職員紹介



まつしま
松島 由衣

勤務開始日…平成二十五年十月一日

配属先…二階Aチーム

【ひとこと】

利用者様の体調管理を行い、異常時には早期に対応できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

ゆうゆう消防演習に参加して

田中はつみ

平成二十五年十一月十日に消防演習が行われました。夜間に厨房からの出火と言う想定で、私は夜勤当直看護師として参加しました。防災マニュアルを再確認できる機会となり、疑似入所者合計二十三名で、いずれも軽症で一名は煙による呼吸困難で救急搬送されるという設定となりました。ステーションでの一一九通報の為、使用したことのない直通インターホンの操作もあり、本番さながらの体験にとっても緊張してしまいました。

振り返ると反省すべき点が沢山あり、訓練当日はあいにくの雨天の中、行動しにくい状況で実施されましたが、本部にいた私は避難所のリーダーと上手く連絡が取れず、要救助者がどの程度の被災状況なのか把握できなかったため、救急隊への申し送りができず医師との連携をとりながらの行動の難しさを改めて考えさせられました。実際に火災が起こった時は、かなりパニック状態となるでしょうが、避難を迅速に行うためには的確な通報と人員確保であり、火災による二次災害を考えると救急車の出動要請もあらかじめしておく必要があると思います。日頃の地域住民との関わりや理解も大切と考えます。さらに自分や夜勤職員の安全確保も忘れてはいけないと思います。今後はいつ起きるか解らない災害に備え、スタッフ間でもディスカッションする時間を設けたり、当たり前のことですが、緊急時の行動や必要物品の場所と使用方法について周知しておく必要があると感じました。百床前後の利用者の安全確保はとても大変なことですが、今回の訓練を通じて多くの課題があることが解り単に防災マニュアルに甘んじることなく、体験を通じて学ぶシミュレーション形式で訓練を行うことで、個々の職員の意識も高まり、いざと言う時の行動に役立つのではないかと感じています。有意義な体験学習の一日になりました。



ボランティア日記

十二月十一日ルーテル幼稚園の園児達がすてきなクリスマスプレゼントを届けに来てくれました。「あそこに小さい子がいっぱいいたねえ」と目を輝かせながら待っている利用者の方。周りが老人ばかりで少し緊張気味の子ども達。

まずは、ハンドベルの演奏。とても上手でした。先生の指示をしっかりと見て、きつと何度も練習したのでしよう。利用者の方たちは目頭を押さえ涙をこらえるのに必死でした。

それから親御さんたちの歌。子ども達の劇を見させて頂きました。演奏終了後子ども達が作ってくれたクリスマスカードを一人ひとり手渡しで頂きました。



2013/12/11 10:36



小さな子ども達の笑顔に感謝です。利用者の方がたも大変喜んでいました。ありがとうございました。

介護ワンポイントアドバイス⑥

「ノロウイルス 嘔吐時の対応」

最近全国でノロウイルスが猛威をふるっていますね。

ノロウイルスは幅広い年齢層に感染性胃腸炎をおこすウイルスで、十月〜三月にかけて多発します。百個以下でも感染し、終生免疫がつくことはなく繰り返して感染します。

抗菌薬は効果なく、特効薬はありません。ウイルスに感染してから二十四〜四十八時間間で下痢、嘔吐、腹痛、発熱などの症状がみられ、通常は三日以内に回復します。

(但し、回復後も一週間程度糞便中にウイルスが排泄されます。)

【嘔吐物の処理方法】

- ① 使い捨て手袋・マスク・エプロンを着用する。
- ② 使い捨ての布やペーパータオルで外側から内側に向けて、ふき取り面を折り込みながら静かにふき取る。
- ③ 使用後の布はすぐビニール袋に入れ、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込む程度入れる。
- ④ 吐物が付着していた床やその周囲を、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませた布やペーパーで覆うか、浸すように拭く。

- ⑤ 使用後の使い捨て手袋・マスク・エプロンは表面を触れないように外し、密閉処理する。(乾燥するとウイルスが舞い上がる)
- ⑥ 流水と石鹸による手洗いを行なう。室内の換気を行う。

この時期の下痢、嘔吐はまさか！に備えて万全の対策をしましょう。



編集後記

ゆうゆう開設二十周年の記念講演会が開催されます。講演会では「サクセスフルエイジング」という言葉がでています。皆さん聞いたことがあるでしょうか？歳を重ねてもいきいきとした生活をするということだそうです。自分のこれからの生活を考えるよい機会になると思います。

私たちも利用者様に笑顔でいきいきとした生活を送れるよう、お手伝いしていききたいと思っています。

(柴)